

I. 2024 年度の概要

1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、2010 年 10 月 1 日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。
- (2) 2024 年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公 1）並びに研究業績褒賞事業（公 2）に区分して実施した。

助成事業 (公 1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (2) PI セットアップ研究助成 2. 海外共同研究支援助成（本年度休止） 3. 研究会・シンポジウム開催助成（本年度休止） 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 (公 2)	1. 研究業績褒賞（第 22 回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 （高峰カンファレンス）（本年度休止）

2. その他について

- (1) 指定寄附金収入
第一三共株式会社より 2024 年 4 月 10 日、指定寄附金として 2 億 5 千 5 百万円を受領した。
- (2) 主要事業活動報告
- ① 2024 年 4 月 26 日の第 29 回選考委員会にて、2024 年度 PI セットアップ研究助成の候補者並びに第 22 回高峰記念第一三共賞二次候補者の選考を行った。
 - ② 2024 年 5 月 17 日の第 22 回高峰記念第一三共賞審査委員会にて、2024 年度同賞の最終候補者を決定した。
 - ③ 2024 年 5 月 29 日の第 51 回理事会にて、2023 年度の事業報告及び決算報告書、2024 年度 PI セットアップ研究助成者の決定、2024 年度高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期満了に伴う理事候補者推薦、任期満了に伴う選考委員改選、助成・褒賞事業募集方法変更、2024 年度 PI セットアップ研究助成及び高峰記念第一三共賞事業推薦・応募要領、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規定改定、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の各件について審議され、承認された。

- ④ 2024 年 6 月 20 日の第 19 回評議員会にて、2023 年度事業報告及び決算報告、任期満了に伴う理事改選、評議員選出、役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規定改定の各件について審議され、承認された。
- ⑤ 2024 年 6 月 21 日、内閣府に 2023 年度事業報告及び決算報告を提出した。
- ⑥ 2024 年 6 月 24 日、内閣府に役員・評議員に対する報酬等の支給基準変更の届出を提出した。
- ⑦ 2024 年 6 月 26 日のみなし決議による第 52 回理事会にて、理事長・常務理事を選定した。
- ⑧ 2024 年 7 月 16 日、内閣府に理事・評議員変更の届出を提出した。
- ⑨ 2024 年 10 月 4 日の第 30 回選考委員会にて、2024 年度研究助成候補者及び 2025 年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。うち、2025 年度海外留学奨学研究助成については、候補者の上位 5 名について常務理事が面接を実施し、最終候補者（5 名）を選出した。
- ⑩ 2024 年 12 月 9 日の第 53 回理事会にて、2024 年度研究助成対象者決定、2025 年度海外留学奨学研究助成対象者決定、2025 年度事業計画・収支予算・資金調達及び設備投資の見込み、2025 年度秋の助成応募要領、高峰記念第一三共賞審査委員会運営規定改定の各件について審議され、承認された。
- ⑪ 2024 年 12 月 9 日に 2024 年度（第 22 回）高峰記念第一三共賞の贈呈式を開催した。
- ⑫ 2024 年 12 月 18 日、内閣府に 2025 年度事業計画書等を提出した。

(3) 人事関係

- ① 2025 年 3 月 31 日現在の関係者の人員数は、理事 16 名（前期比 1 名増）、監事 2 名、評議員 9 名（前期比 1 名増）、選考委員 22 名、研究業績褒賞に係る審査委員（高峰記念第一三共賞審査委員）7 名、顧問 6 名、職員 2 名。
- ② 理事について、任期満了に伴う改選が行われ、6 月 20 日付で、小池隆夫氏、福山透氏、松本俊夫氏及び森郁恵氏が退任し、新たに選任された植松素子氏、大隅典子氏、門松健治氏、鈴木啓介氏及び福本誠二氏を含む、16 名が就任した。
- ③ 理事長について、みなし決議による第 52 回理事会（2024 年 6 月 26 日）において、眞鍋淳理事が選定され 6 月 26 日付で重任した。同時に、常務理事について高橋正明理事が選定され重任した。
- ④ 評議員について、6 月 20 日付で、新たに森郁恵氏が就任した。
- ⑤ 選考委員について、任期満了に伴う改選が行われ、5 月 29 日付で、植松素子氏、大島正伸氏、大隅典子氏、門松健治氏、菊池章氏、福本誠二氏が退任し、新たに親泊政一氏、河崎洋志氏、滝田順子氏、深田正紀氏、藤山文乃氏、山崎小百合氏を含む 22 名が就任した。

Ⅱ. 2024 年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (定款第4条(1))	90,000 千円	@200 万円×45 件 ^{*1}
	(2) PI セットアップ研究助成 (定款第4条(1))	40,000 千円	@400 万円×10 件 ^{*2}
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条(2))	一千円	@50 万円/件 (本年度休止 ^{*2})
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条(3))	一千円	@50 万円/件 (本年度休止 ^{*2})
	4. 海外留学奨学研究助成 (定款第4条(4))	67,000 千円	2023 年度 @550 万円×4 件 ^{*2} 2024 年度 @750 万円×6 件 ^{*2}
	その他助成事業費	12,621 千円	諸謝金、賃借料、旅費交通費、ビル共益管理費等
	助成事業計	209,621 千円	
研究業績褒賞事 (公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条(5))	26,157 千円	第22回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマに 関連するシンポジウム開催 (定款第4条(5))	一千円	高峰カンファレンス (本年度休止)
	その他研究業績褒賞事業費	11,773 千円	会議費、委託費、旅費交通費、 諸謝金等
	研究業績褒賞事業計	37,930 千円	
	合 計	247,551 千円	

^{*1} 2024 年度から海外留学奨学助成金を増額した影響で、研究助成の採択件数は前年度の 50 件から 45 件となった。(第 50 回理事会)

^{*2} 2023 年度海外留学奨学研究助成採択者 1 名が辞退し、昨年度の採択件数は 4 件となったため、2024 年度海外留学奨学研究助成採択者を 1 件増枠した。(第 50 回理事会)

助成事業（公1）

2.1 研究助成（定款第4条(1)）

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

(2) プログラム：研究助成は二つのプログラムよりなる。

① 研究助成

② PI セットアップ研究助成

(3) 募集対象

① 研究助成

日本国内在住の研究者

② PI セットアップ研究助成

(a) 研究責任者（PI）として、2023 年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、あるいは 2024 年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。

(b) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可

(c) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可

(d) 45 歳以下（2024 年 4 月 1 日現在）の研究者

(4) 募集規模

① 研究助成

(a) 1 件当たり 200 万円（助成期間は、2024 年度以降 2 年間）

(b) 採択分野：生命科学研究分野・創薬基盤研究分野・新領域研究分野

(c) 採択件数：新規 45 件（うち 8 件を女性優先枠）

生命科学研究分野 35 件（うち女性優先枠 6 件）、創薬基盤研究分野 9 件（うち女性優先枠 2 件）、新領域研究分野 1 件（うち女性優先枠 0 件）

② PI セットアップ研究助成

(a) 1 件当たり 400 万円（助成期間は、2024 年度以降 2 年間）

(b) 採択分野：生命科学研究分野・創薬基盤研究分野・新領域研究分野

(c) 採択件数：新規 10 件（うち 2 件を女性優先枠）

生命科学分野 8 件（うち女性優先枠 2 件）、創薬基盤研究分野 2 名（うち女性優先枠 0 件）、新領域研究分野 0 名

(5) 募集方法

当法人ホームページにて応募要領を掲載し、理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）宛に応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付し募集する。

(6) 応募方法

① 応募者は、理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）を推薦者として、推薦を依頼する。

- ② 推薦者は、応募者の中から応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則 1 名を公正かつ適正に選定する。
- ③ 応募者は推薦書を取得後、当法人ホームページの助成 Web 登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信する。送信された申請書類を当財団にて確認後、申請者に申請を受付けた旨の連絡を行い、受付番号を交付する。
- ④ 応募期間
 - (a) 研究助成：2024 年 6 月 1 日～7 月 31 日
 - (b) PI セットアップ研究助成：2024 年 1 月 4 日～2 月 20 日
- ⑤ 応募件数
 - (a) 研究助成：222 件
生命科学研究分野 165 件、創薬基盤研究分野 43 件、新領域研究分野 14 件
 - (b) PI セットアップ研究助成：73 件
生命科学研究分野 56 件、創薬基盤研究分野 10 件、新領域研究分野 7 件
- (7) 選考方法
 - ① 研究助成
第 30 回選考委員会による選考結果をもとに、第 53 回理事会にて 45 名の助成者を決定した。
(附属明細書 [資料 - 1]：2024 年度当該助成採択者参照)
 - ② PI セットアップ研究助成
第 29 回選考委員会による選考結果をもとに、第 51 回理事会にて 10 名の助成者を決定した。
(附属明細書 [資料 - 2]：2024 年度当該助成採択者参照)
- (8) 助成者の表彰
2024 年度助成者の贈呈式を行った (2024 年 12 月 9 日 ステーションコンファレンス東京)。
- (9) 助成金の交付
 - ① 交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。
 - ② 交付時期
 - (a) 研究助成：2025 年 1 月に一括交付 (2 年分 200 万円/件)。
 - (b) PI セットアップ研究助成：2024 年 8 月に一括交付 (2 年分 400 万円/件)。
- (10) 研究成果の報告
 - ① 助成者は、助成期間終了後、研究報告書及び収支決算報告書を当法人に提出する。
 - ② 助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページに掲載した。

2.2 海外共同研究支援助成 (定款第 4 条(2)) (本年度休止)

- (1) 概要
海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。

2.3 研究会・シンポジウム開催助成 (定款第 4 条(3)) (本年度休止)

- (1) 概要
萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。

2.4 海外留学奨学研究助成（定款第4条(4)）

(1) 概要

海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。

(2) 募集対象

- ① 原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下（2024年4月1日現在）の研究者。なお、6年制学部卒業者は37歳以下とする。
- ② 海外の大学等研究機関において、2年以上研究に従事することを計画している者

(3) 募集規模

- ① 1件当たり1,500万円（助成期間は、2025年度以降2年間）
- ② 採択分野：生命科学研究分野・創薬基盤研究分野・新領域研究分野
- ③ 採択件数：5件（うち女性優先枠1）
生命科学分野3件（女性優先枠0件）、創薬基盤研究分野1件（女性優先枠0件）、新領域研究分野1件（女性優先枠1件）

(4) 募集方法：「研究助成」と同一

(5) 応募方法

- ① 応募方法は「研究助成」と同一
- ② 応募期間：2024年6月1日～7月31日
- ③ 応募件数：55件
生命科学研究分野42件、創薬基盤研究分野6件、新領域研究分野7件

(6) 選考方法

第30回選考委員会による選考結果をもとに、第53回理事会にて5名の助成者を決定した。

（附属明細書「資料-3」：2025年度当該助成採択者参照）助成者の表彰

2025年度助成者の贈呈式を行った（2024年12月9日 ステーションコンファレンス東京）。

(7) 助成金の交付

- ① 交付方法：助成対象者の指定する国内銀行口座を通じて交付する。
- ② 交付時期：年額750万円を毎年4月に交付する予定（2年間）。

(8) 研究成果の報告：「研究助成」と同一

3. 研究業績褒賞事業（公2）

3.1 研究業績褒賞（定款第4条(5)）

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

(2) 褒賞名：第22回高峰記念第一三共賞

(3) 褒賞対象者

日本国内において、生命科学分野での基礎・臨床研究並びに技術開発、特に疾病の予防と治療の進歩・発展に顕著な功績をあげた研究者や団体

(4) 推薦方法

- ① 理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長、学会並びに当法人の評議員、理事、顧問、選考委員及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。
- ② 推薦期間：2024 年 1 月 4 日～2 月 20 日
- ③ 推薦件数：19 件
- (5) 選考方法
 - ① 第一次選考
第 29 回選考委員会にて推薦候補者の選考を行い、5 名が第二次候補者となった。
 - ② 第二次候補者に対し、応募の意思の確認及び応募申請の要請を行った。
 - ③ 審査員特別枠として第一次候補者 1 名を第二次候補者として追加した。
- (6) 最終選考
 - ① 第 22 回高峰記念第一三共賞審査委員会は、第二次候補者 6 名について、応募申請書及び選考委員会結果を参考に審査基準に基づき審議し、最終候補者並びに本年度は共同受賞者を選定した。
 - ② 第 51 回理事会において、褒賞受賞者を決定した。
 - ③ 受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由をホームページにて掲載した。
- (7) 受賞者及び受賞研究テーマ
 - ① 受賞者
竹田 潔 博士（大阪大学大学院医学系研究科 教授）
本田 賢也 博士（慶應義塾大学医学系研究科 教授・理化学研究所 チームリーダー）
 - ② 受賞研究テーマ：「宿主と腸内細菌叢の相互作用に関する先駆的業績」
- (8) 褒賞の内容及び贈呈
 - ① 賞状、賞牌並びに副賞（2,000 万円）を贈呈した。
*副賞は、1,000 万円／人
 - ② 贈呈式にて受賞者の表彰ならびに講演を実施した（2024 年 12 月 9 日 ステーションコ
ンファレンス東京）。出席者数は 80 名。

3.2 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第 4 条(5)） （本年度休止）

- (1) 概要
高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。
- (2) 名称：高峰カンファレンス

以 上

4. 附属明細書

[資料－1]

2024年度研究助成採択者

45名（200万円交付）

生命科学研究分野

(50音順 敬称略)

氏名	所属機関名	研究課題名
上田(石原) 奈津美	東邦大学理学部生物分子科学科	ナノスケールのpH多様性の実証～予防医学への応用を目指して
家田 直弥	北海道大学大学院薬学研究院	光誘起電子移動をトリガーとした近赤外光ケージド化合物の開発
井木 太郎	大阪大学大学院生命機能研究科	タンパク質をコードするゲノムの情報を非コード化させる現象の解明
市山 健司	大阪大学免疫学フロンティア研究センター	制御性T細胞の活性化における新規Foxp3結合因子Bcl11bの機能およびその制御機構の解明
稲田 明理	神戸医療産業都市推進機構先端医療研究センター臨床研究部	生後の膵β細胞の適応能力
上田 卓見	大阪大学大学院薬学研究科定量生命物理化学分野	核磁気共鳴法によるGPCRに作用する薬物の滞在時間を規定する機構の解明
大久保 真理子	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 研究所 疾患ゲノム研究部	広範な遺伝子スプライシング異常を伴う脊髄小脳失調症に対する遺伝子治療の開発
大島 浩子	金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍遺伝学	リガンド依存的なWntシグナルによる胃がん転移形成機構の研究
大庭 伸介	国立大学法人大阪大学大学院歯学研究科 組織・発生生物学講座	骨形成性間葉の運命決定機構の包括的理解
小坂田 拓哉	東京工業大学生命理工学院 生命理工学系 黒田研究室	社会的敗北時に分泌されるオキントシンによって可塑的に攻撃が制御される神経回路の同定
川井 正信	大阪母子医療センター研究所分子遺伝・内分泌代謝 研究部門	時間栄養エネルギー学を基盤とする骨粗鬆症治療薬の開発
木村 元子	千葉大学 大学院医学研究院実験免疫学	腫瘍所属リンパ節における腫瘍抗原からのシグナル強度制御に基づく新たながん免疫療法の開発に向けた基盤研究
倉光 俊一郎	名古屋医療センター脳神経外科	膠芽腫における CAR-T 細胞の NK 様疲弊メカニズムの解析
小池 誠一	富山大学学術研究部工学系	SNAREタンパク質に依存しない未知の膜融合メカニズムとその生理的意義の解明
候 聡志	東京大学大学院医学系研究科先端循環器医科学講座	心筋細胞DNA損傷と可塑性への介入による新規心不全治療戦略の開発
小林 穂高	徳島大学先端酵素学研究所	新型RNAタグを利用したRNAの細胞内イメージング
近藤 誠	大阪公立大学大学院医学研究科脳神経機能形態学	うつや不安を調節する新たな神経メカニズム
佐原 真	国立大学法人浜松医科大学 医学部医学科 再生医療学講座	新たな心臓発生・成長促進因子の化学的修飾mRNAによる心再生医療の開発
篠原 彰	大阪大学蛋白質研究所蛋白質高次機能研究部門	ゲノム不安定化による卵子機能不全や老化とアルコール代謝との関連
柴 直子	信州大学医学部再生医科学教室	iPS細胞を用いた筋ジストロフィー心筋症の病態解明と心筋再生治療の検討
白根 道子	名古屋市立大学薬学研究科 分子生物薬学	リポタンパク質制御と脳機能の関連メカニズムの研究

氏名	所属機関名	研究課題名
高野 晴子	日本医科大学 先端医学研究所病態解析学部門	肺胞形成を担う内皮細胞集団の発生機序解明と再生医療への応用
武富 芳隆	東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター	2型免疫微小環境を作り出す細胞外脂質代謝の解明
中島 友紀	国立大学法人 東京医科歯科大学歯学部	骨細胞の機能別クラスターを基盤にした骨恒常性の制御機構の解明
鍋倉 幸	愛知県がんセンター 研究所腫瘍免疫応答研究分野	次世代ナチュラルキラー細胞療法の開発に向けた基盤技術の構築
西川 恵三	同志社大学大学院生命医科学研究科	二光子励起ライブイメージング法を用いた骨メカノセンシングの理解深化
西山 功一	宮崎大学医学部医学科 機能制御学講座 血管動態生化学分野	血管新生操作法開発に向けた、ペリサイトー内皮間作用による生体力学的制御機構の解明
林 久允	東京大学大学院薬学系研究科	遊離コリンの肝臓内取り込み機構の理解
藤原 英晃	岡山大学病院血液・腫瘍内科	口腔細菌叢による骨髄移植後免疫反応の解明と治療応用
古屋敷 智之	神戸大学大学院医学研究科	老化による意欲減退と認知機能障害を司る神経回路変容とその機序の解明
松尾 直毅	九州大学大学院理学院生物科学部門	トラウマ記憶の永続消去および消去効果の個体差の神経基盤解明
松崎 仁美	筑波大学生命環境系ゲノム情報生物学研究室	In vitro再構築系による哺乳類遺伝子継世代発現調節機構の解析
安田 貴彦	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター高度診断研究部	T細胞受容体再構成に伴う環状DNA (TREC) による新規白血病発症メカニズム
山口 賀章	関西大学 化学生命工学部 生命・生物工学科	交差遺伝学的アプローチを利用した時差病態の予防・治療法の開発
山本 雄介	国立がん研究センター研究所病態情報学ユニット	細胞外小胞分泌制御による転移性がんの治療戦略の開発

創薬基盤研究分野

氏名	所属機関名	研究課題名
今西 未来	京都大学化学研究所	RNA高次構造の高分解能in-cellアナライザーの構築
金子 雪子	静岡県立大学大学院 薬学研究院薬理学講座	臍島標的薬物送達による新規1型糖尿病治療基盤技術の構築研究
北 将樹	国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学大学院生命農学研究科応用生命科学専攻	麻痺性神経毒BPP類およびヒト脳内類似ペプチドの標的受容体と作用機序の解明
佐藤 隆章	慶應義塾大学理工学部応用化学科	シクロスポリンA：抗ウイルス薬創製プラットフォームへの応用
野村 紀通	京都大学大学院医学研究科分子細胞情報学分野	B型肝炎ウイルス膜蛋白質の生理的準安定状態の構造解析と創薬基盤の確立
八尾 尚幸	九州大学大学院医学研究院 応用幹細胞医科学部門 がん幹細胞医学分野	造血器悪性腫瘍による血球減少症の発症機構に基づいた治療薬の開発
吉戒 直彦	東北大学大学院薬学研究科	新規超原子価ヨウ素反応剤の精密設計に基づく非天然カンナビノイド型分子群の創出
吉川 雄朗	北海道大学大学院医学研究院神経薬理学教室	ヒスタミン代謝系を標的とした新規過眠症治療薬の開発
吉田 優哉	九州大学大学院役模研究院薬物動態学分野	GPR68の構造解析を起点とした新規治療薬導出

新領域研究分野

氏名	所属機関名	研究課題名
石田 裕子	和歌山県立医科大学医学部法医学講座	被虐待児のエピジェネティクス分子指標探索およびその法医診断学への応用

2024年度PIセットアップ研究助成採択者

10 名（400 万円交付）

生命科学研究分野

(50 音順 敬称略)

氏名	所属機関名	研究課題名
稲木 美紀子	大阪大学大学院理学研究科	ショウジョウバエ卵巣上皮をモデル系とした集団移動性獲得機構の解明
入江 奈緒子	公益財団法人実験動物中央研究所	ヒト着床期胚発生における細胞外酸素濃度感知機構と代謝変動の役割の解明
小松 紀子	東京大学大学院 医学系研究科	病原性 T 細胞に基づいた組織恒常性破綻機構の解明
高橋 悠太	熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）	生活習慣病の発症感受性を高める世代間継承機構の解明
坪山 幸太郎	東京大学生産技術研究所	人工タンパク質とAIによるタンパク質相互作用の全容解明
丸山 健太	愛知医科大学医学部薬理学講座	RNAウイルス感染で死ぬのはなぜか？
森下 英晃	九州大学大学院医学研究院	革新的<i>in vivo</i>スクリーニング系の確立による細胞内分解現象の分子基盤の解明
劉 孟佳	東京慈恵会医科大学	心臓の発生および筋組織の老化における免疫作用を超えた組織マクロファージの役割

創薬基盤研究分野

氏名	所属機関名	研究課題名
後藤 佑樹	京都大学大学院理学研究科	天然物局所骨格の理解・活用・融合による新奇クラスの人工ペプチド薬剤の創製研究
長友 優典	北海道大学大学院薬学研究院	高反応性化学種を用いたC(sp ³)?C(sp ² /sp) ハイブリッド天然物合成の革新

[資料-3]

2023年度海外留学奨学研究助成採択者

4名（550万円/年、2年交付）

（50音順 敬称略）

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
上田 潤	京都大学大学院医学研究科 Northwestern University USA	異なるサブタイプのドパミン作動性神経細胞に対するアルファシヌクレイン病理の影響
黒田 雅士	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 シンシナティ小児病院医療センター USA	肥満病態におけるRNAダイナミクスの意義
相田 泰毅	慶應義塾大学大学院理工学研究科 カリフォルニア工科大学 USA	新規リアノイド群とその類縁体の網羅的全合成およびリアノジン受容体結合能の解明
渡辺 佳織	京都大学大学院生命科学研究科 Whitehead Institute for Biomedical Research USA	タンパク質飢餓下での生殖細胞内サテライトDNAの選択的分解機構と適応的意義の解明

2024年度海外留学奨学研究助成採択者

6名（750万円/年、2年交付）

生命科学研究分野

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
足立 晃正	都立墨東病院皮膚科 Harvard Medical School USA	菌性感染症が皮膚炎症に及ぼす病態メカニズムの解析
安達 裕助	東京大学医学部附属病院循環器内科 CVPath Institute USA	ヒト動脈硬化性疾患における炎症および免疫制御メカニズムの解明
笠原 由佳	九州大学大学院医学研究院 応用幹細胞医科学講座 ペンシルバニア大学 USA	てんかんに伴う認知障害を引き起こす神経回路活動の解明
長野 真大	京都大学大学院医学研究科生体構造医学講座機能微細形態学 Massachusetts Institute of Technology - MIT USA	細胞分化を規定する動的エンハンサープロモーター制御機構の解明
山田 臣太郎	東京大学医学部附属病院循環器内科 セントルイス・ワシントン大学 USA	マルチオミクス解析による神経線維腫症Ⅰ型の分子機序解明および個別化医療の実現

創薬基盤研究分野

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
奥 直樹	京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻有機設計学講座 Cornell University USA	電気・光協働触媒による脂肪族アルケンのanti-Markovnikov型水和反応の開発

2025年度海外留学奨学研究助成採択者

5名（750万円/年、2年交付）

生命科学研究分野

（50音順 敬称略）

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
高橋 捷也	横浜市立大学大学院生命医科学研究科 ハイデルベルク大学 ドイツ	長鎖脂肪酸輸送体タンパク質FATPの構造と機能の解明
中井 りつこ	地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪国際がんセンター血液内科 Washington University School of Medicine USA	Mitochondria transferを介した造血管腫瘍に対する新規治療開発
吉田 竜星	九州大学薬学研究院分子生物薬学分野 University of Freiburg / University of California, San diego USA	古細菌の細胞周期を司る遺伝子発現の法則

創薬基盤研究分野 応募6件

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
佐藤 美優	北海道大学 総合化学院分子化学コース 反応制御学講座 カリフォルニア大学バークレー校 USA	gem-ジアルキンの非対称化を鍵反応とするエプルナミン誘導体の一挙構築

新領域研究分野

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
小林 揚子	国立精神・神経医療研究センター脳神経小児科 カルフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA) USA	Deep learningを用いた難治性てんかんの病態解明と予後予測バイオマーカーの確立